

2016年5月27日

岐阜県知事 古田 肇 様

## 長良川の環境改善を求める要請書

よみがえれ長良川実行委員会 共同代表 粕谷 志郎  
亀井 浩次

貴職の日頃の河川行政推進のご努力に敬意を表します。

昨年12月、長良川の中上流域が世界農業遺産に登録されました。県民の宝「清流長良川」が世界に評価されたことは喜ばしいことでした。しかし、河口堰によって環境悪化した下流域は登録申請すらされませんでした。この状況を速やかに改善することは、次世代に対し果たさなければならない私たちの責務です。貴職が率先して河口堰開門調査の検討をされることを求めます。

また昨年11月、木曾川水系連絡導水路事業の「再検証」にかかる関係地方公共団体からなる検討の場（以下「検討の場」という）（幹事会）が開催されました。これは前会議ならびにパブリックコメント以来4年ぶりの開催で、今後、「学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者からの意見聴取」を経て、対応方針(案)の決定をされるとされています。

本事業計画については、長良川の環境悪化を心配する市民の声が高まり、国はあれこれ修正を加え説明しようとしたのですが、納得できるものではなく回答不能のまま中断し、2009年秋には「凍結」となっています。そして2010年秋からは他のダム等の84事業の一つとして「再検証」の対象となっています。

私たちは、今回の4年ぶりの「検討の場」の再開に大きな不安を覚えます。それは、岐阜県が検討の場において県民の「長良川の環境悪化の不安」を置き去りに事業の継続・推進を促す発言を繰り返しているからです。徳山ダムの水を長良川に放流することは、世界農業遺産に登録された「清流長良川の鮎」に大きなダメージを与えることにとどまらず、次世代に残さなければならない宝を失うことにもなりかねません。検討の場で事業を継続・推進する発言は県民の願いを裏切るもので撤回してください。

岐阜県が作成・発行した『伝統的防災施設』を私たちは歓迎します。その内容が県政で具体化、充実化されることを望みます。ダムや河口堰に頼る治水施策が甚大な環境破壊を引き起こした事例は枚挙にいとまがありません。本体工事が始まった内ヶ谷ダム建設事業ですが、先人の知恵を借りてもう一度再検討すべきだと考えます。

以上の趣旨から下記の要請事項に回答されるようお願いいたします。

1. 「検討の場」において本事業による長良川の環境悪化の危惧を表明し、事業の継続・推進の発言をやめること。
2. 長良川河口堰開門調査を検討すること。
3. ダムによらない伝統的防災施設施策の充実をはかり、内ヶ谷ダム建設事業の再検討を行うこと。

以上。

木曾川導水路の  
推進発言撤回を  
県に市民団体要請

徳山ダム（揖斐郡揖斐川町）の水を長良川や木曾川に流す木曾川水系連絡導水路事業を巡り、21の市民団体でつくる「よみがえれ長良川実行委員会」は27日、県が関係自治体との会合で、国に事業の継続・推進を求める発言をしたことについて、発言撤回を県に要請した。

県は昨年11月の会合で「検証作業を速やかに進めてほしい。（事業は）渇水対策にもつながら」と発言。これに対し実行委は「長良川の環境悪化が危惧される」と指摘、長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査や建設が進む内ヶ谷ダム（郡上市）の事業見直しも求めた。

粕谷志郎共同代表らメンバー9人が県庁を訪れ、三戸雅文県土整備部次長兼河川課長に要請書を手渡した。写真。メンバーは「環境に悪影響を与えるのは明らか『世界農業遺産に認定された『清流長良川の鮎』を守る立場に立ってほしい』と求めた。三戸次長は「国や水資源機構にも伝えた」とした。（根尾文悟）



2016 5/28 45年新聞